

ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた作戦安値107円水準を下回り105円台に突入しています。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性などといったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、年初

1

本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。掲載している情報については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。投資の最終判断はお客様ご自身でなさるようお願い致します。本資料により生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

ドル/円相場のトレード戦略

からのドル安は積み上がった円売りポジションの調整にはしばらく時間がかかりそうです。

今年はレンジ相場が継続するという見方に変化はないものの、想定レンジを100円～115円程度に下方修正する必要があるようです。

また、昨年から続いてきた三角持合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は108円水準が戻りのめどとなりそうです。

■短期展望

先週は、106円台前半で始まり前週のドル急落の反動もありドルが目を持ち直す動きが続き、21日には107円90銭の高値を付けました。

しかし、108円水準ではドル売り圧力が強く、再び106円台まで押し戻され、106円台後半で週を越えました。

今週もドルの上値の重い動きが続きそうです。

米国株式は反発し落ち着きつつあるものの、市場の緊張感は消えてはおらず、リスク回避傾向は続くものと思われます。

もっとも、再び105円を試す動きとなるには、新たな材料が必要と考えられ105円半ばから107円程度のレンジ取引となる可能性が高いように思われます。